

令和 7 年 1 1 月 7 日

令和 7 年千葉市教育委員会会議第 1 1 回定例会

[参考資料]

議案第 3 7 号関係 1

議案第 37 号関係

参考資料

千葉市文化財保存活用地域計画について

1 策定目的

文化財を保存・活用するには、市民や関係団体、所有者、専門機関、行政をはじめ地域総がかりで計画的かつ組織的に取り組む必要があることから、市内の文化財の総合的な保存活用に係るマスタープラン兼アクションプランとして策定する。

策定後は、計画に基づき、市民や所有者、行政などが協力し、文化財を活かした魅力溢れるまちづくりに取り組む。

本市では、これまで文化財全般を対象とした総合的な計画は策定しておらず、初の計画となる。

◎文化財保存活用地域計画

平成 31 年度の文化財保護法改正により、地域住民と行政が一体となり、地域の文化財を後世に継承していくための体制整備を目的に制度化された。

文化財保護法の規定（法第 183 条の 3）や文化庁の指針、都道府県が策定する「文化財保存活用大綱」（千葉県は令和 2 年度に策定済み）を踏まえ、市町村の特色を活かしつつ策定し、文化庁長官の認定を受けることで、新たな国庫補助金の活用、市町村による未指定文化財の国登録文化財への提案等が可能になる。

2 他市事例

政令市：策定済み又は作成中 12 市（札幌市、さいたま市、横浜市、川崎市、相模原市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、神戸市、福岡市、北九州市）

未着手 7 市（仙台市、新潟市、大阪市、堺市、広島市、岡山市、熊本市）

県内：策定済み又は作成中 12 市（我孫子市、鉾田市、富里市、香取市、鎌ケ谷市、松戸市、柏市、佐倉市、流山市、館山市、鴨川市、東金市）

3 策定体制

文化庁の指導・助言のもと、国庫補助事業として、令和 4 年度から 7 年度の 4 か年計画で策定する。

千葉市文化財保存活用協議会で検討し、文化財保護審議会及び庁内関係各課の意見を聴取・反映の上、計画原案を取りまとめる。

パブリックコメントを実施し、計画を策定する。

◎千葉市文化財保存活用協議会

文化財保護法に規定された協議会（法第 183 条の 9）で、計画の作成、変更及び実施のため、多様な関係者により組織する。

設置は国庫補助事業として計画策定を行うための条件の一つであり、本市でも令和 4 年度に設置した。

4 計画の概要（別紙「03 千葉市文化財保存活用地域計画【千葉県】」参照）

5 現在の進捗状況

令和 3 年度 過去の文化財調査成果の整理等の準備作業に着手した。

令和 4 年度 協議会設置、計画素案・文化財リストの作成、アンケート調査結果の分析、市民講座開催。

※国庫補助事業として、令和 4 年度から 7 年度の 4 か年で実施する。

令和 5 年度 計画素案・文化財リストの作成（継続）、市民参加型ワークショップ開催、協議会開催。

令和 6 年度 計画素案・文化財リストの作成（継続）、内容の庁内照会、協議会開催。文化庁担当調査官への照会

令和 7 年度 パブリックコメント手続きの実施（5 月 28 日から 6 月 30 日まで）
計画案を文化庁に提出（9 月）

6 今後のスケジュール

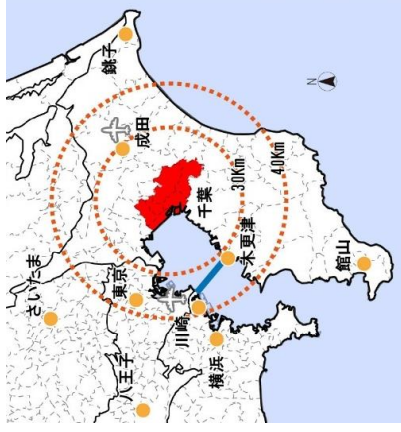
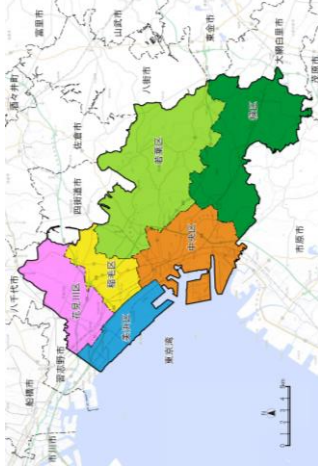
9 月～11 月上旬	文化庁各部門担当調査官による内容確認 関係省庁による内容確認
11 月 7 日	教育委員会会議議案提出
11 月下旬	文化庁に認定申請
12 月中旬	文化庁長官による認定

03 千葉市文化財保存活用地域計画【千葉県】

【計画期間】 令和8～14年度（7年間）

【面積】 271.78km²

【人口】 約98.8万人



推進体制



指定等文化財件数一覧

類型	種別	国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	県登録	市登録※1	合計
有形文化財	建造物	0	—	3	6	8	0	1	18
	絵画	1	—	7	0	0	0	0	8
	彫刻	1	—	3	16	0	0	0	20
	工芸品	3	—	4	3	0	0	0	10
	書跡・典籍	0	—	2	0	0	0	0	2
	古文書	0	—	1	2	0	0	2	5
	考古資料	0	—	2	8	0	0	0	10
無形文化財	歴史資料	0	—	0	1	0	0	1	2
	無形文化財	0	0	2	0	0	0	0	2
	有形の民俗文化財	0	—	0	1	1	0	0	2
	無形の民俗文化財	0	1	2	1	0	0	4	8
記念物	遺跡	5※2	—	6	12	0	0	2	25
	名勝地	0	—	0	1	0	0	0	1
	動物、植物、地質鉱物	4※3	—	3	0	0	0	0	7
	文化的景観	0	—	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群	文化的景観	0	—	—	—	—	—	—	0
	伝統的建造物群	0	—	—	—	—	—	—	0
合計		14※2・3	1	35	51	9	0	10	120

文化財の保存技術	0	—	0	0	—	—	—	—	0
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

指定等文化財は、120件

未指定文化財は、4,976件把握

※1 千葉市地域文化財

※2 うち1件は特別天然記念物

※3 うち1件は特別歴史跡

歴史文化の特徴

①東京湾と下総台地がもたらした豊かな自然資源

東京湾の海産資源と下総台地の陸産資源という2つの豊かな自然は、各時代の文化形成の根幹をなし、加曽利貝塚や古墳、千葉氏による中世のまちなどが形成されました。近・現代においても、自然地形を活かした飛行場やリゾート地の歴史を伝える資料や景観、谷津田の田園風景が遺り、自然景観が広く親しまれています。



大草の谷津田景観

②房総と鎌倉・江戸・東京を結ぶ中継地

海と陸の利便性を活かし、古代から海上・陸上交通の要衝として発展してきました。東京湾の対岸の鎌倉・江戸へ行き来する海上交通の拠点となり、明治以降の鉄道網の整備で政治・経済・文化の面から、房総半島における中心地としての地位を確立しました。



御成街道

③海と陸の文化を取り入れ育んだ生活と信仰

海と陸の豊かな自然資源に根ざした東京湾沿岸部の漁業や内陸部の農業が発展し、それらは海の神を祀る祭りや山岳信仰などの民俗文化を育んできました。都市化が進む現代においても、自然との関わりの中で育まれた生活や文化は、千葉市の歴史文化を物語る重要な要素として受け継がれています。



大舟の飾り幕

地域に残る文化財を、地域が一体となって守り伝え、文化財を活かした 魅力溢れるまちづくりを行うことを基本理念とします

文化財の保存・活用に關する課題・方針・取組み

【課題】 【方針】

文化財の価値・魅力を「知る」	把握調査、現況確認調査における課題 文化財の現況確認が不十分又は情報更新ができていない 等	①文化財の把握調査、現況確認調査の推進
	調査・研究・指定・登録における課題 都市アイデンティティに関する文化財の調査・研究と公開が不十分 等	②文化財の価値や魅力を明らかにするため の調査・研究と成果の公開
	公開・展示における課題 身近に文化財に触れる機会が少ない 等	③文化財を知る機会・場所の創出
	情報発信における課題 文化財への興味関心を持ってもらいた めの方法の検討が不十分 等	④文化財情報の効果的な発信

【新】：新規事業
【重】：重点的に取り組む事業

【取組みの例】

【重】 3 都市アイデンティティ関連遺跡の発掘調査の実施 加曾利貝塚や千草氏関連遺跡等の都市アイデンティティに関連する重要な遺跡について、大学等の専門機関と連携した発掘調査等を実施し、価値や魅力を学術的に裏付ける。 ■取組主体：行政、専門機関、関係団体、所有者 ■R8～14	【新】 14 大学等機関との連携による若年層への訴求力の向上 文化財に興味関心の薄い若年層を対象に、文化財の価値や魅力を深し活用方法を検討するワークショップを、大学等機関と連携して実施する。市はこの成果を活用し、若年層に訴求する文化財の価値や魅力を発信する方法を検討する。 ■取組主体：行政、専門機関、所有者、市民・地域 ■R8～11
---	---

みんなで文化財を「活かす」	体制整備における課題 文化財を管理・活用するためのデータベースが未整備 等	⑤保存・活用を推進するための体制整備
	連携における課題 活動する市民や関係団体同士の連携が不十分 等	⑥多様な主体との連携促進 ⑦市民や関係団体の活動の確認と相互連携
	活用（まちづくり）における課題 観光やまちづくり事業と連携した文化財の活用が不十分 等	⑧文化財の価値や魅力を伝える多角的な活用
	活用（教育）における課題 教科書による授業だけではなく、郷土の歴史や文化財への理解が不十分 等	⑨学校教育における文化財の活用の促進



文化財ワークショップ

【新】 25 関係団体の活動調査
文化財を保存・活用する地域の担い手と連携するため、公民館等で活動する関係団体やその活動を確認する。
■取組主体：行政、関係団体、市民・地域 ■R8～11

【新】 30 文化財の価値や魅力を活かしたユニークベニューの検討
MICE主催者へのニーズ調査等、建造物や史跡等のユニークベニューとしての活用を、観光担当課と連携して検討・調整を行う。
■取組主体：行政、関係団体、所有者、市民・地域 ■R12～14

文化財を先の世代まで「守る」	保存・管理における課題 埋蔵文化財保護制度の周知が不十分 文化財の収蔵スペースが不足 等	⑩文化財の適切な保存・管理 ⑪文化財収蔵施設の適切な管理
	防災・防犯における課題 個々の文化財の防災・防犯状況を確認できていない 等	⑫文化財の防災・防犯の推進
	継承支援における課題 存続が危ぶまれる郷土芸能があり、支援が必要 等	⑬継承支援策の強化



地域住民による
古文書の虫干し

【新】 48 災害時等の連絡体制や防災・防犯マニュアルの整備
災害時や盗難被害等発生時の連絡体制や防災・防犯マニュアルを整備し、所有者・管理者に配布する。
■取組主体：行政、専門機関、関係団体、所有者 ■R12～14

03 千葉市文化財保存活用地域計画【千葉県】

「千葉市文化財保存活用地域計画」（案）パブリックコメント 意見の概要と市の考え

No.	頁数	項目	意見内容	意見内容に対する市の考え	修正の有無
1	1	序章 (1)計画作成の背景 1段落目、2段落目	「千葉市には、今から35,000年前の～」→「現千葉市域には、今から～」,「千葉市は、明治時代に入り、」→「現千葉市(当時の千葉町)は、明治時代に入り、」の方が時代の変化を感じやすいと思います。	現在の千葉市を表現するものとして“千葉市”を使っているため、原文のままewithと考えております。	無
2	1	序章 (1)計画作成の背景 7段落目	「近年は、戦後に流入した～」→「近年は、戦後に人口流入した～」が適切ではないでしょうか。	文章構成の観点から原文のままewithと考えております。	無
3	1	序章 (2)計画作成の目的 1段落目	「これまでは、史跡や建造物など個別の文化財に対して、行政や所有者、一部の市民が個々に対症療法的に対応せざるを得ない状況がありました。しかし、市内に多く残る多種多様な文化財を確実に保存・活用していくには、計画的かつ組織的に取り組む必要があります。」と記載があるが、これまでは、国・県・市が指定した文化財であっても、行政や所有者、一部の市民が個々に対症療法的に保存・活用していたという理解でよいでしょうか。	ご指摘の理解で間違いありません。 また、「対症療法的」という表現をよりわかりやすくするため、「これまでは、史跡や建造物など個別の文化財に対して、行政や所有者、一部の市民がそれぞれ の状況に 合わせて対応を進めてきました。」に変更	有
4	1	序章 (1)計画作成の背景	「千葉市は35,000年前の旧石器時代までさかのぼる豊かな歴史的背景があります。」とありますが、意外と知られていないと思います。 なぜそうなのか、地理的にも、地形的にも、後背地とするだけでなく、連続した丘陵地、台地として大きな意味を持っていることを、文化への影響を踏まえ、もっと市民に知らせて良いと思います。	いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
5	2	序章 (1)計画作成の目的	「この地域計画は、より多くの市民が、自分の住む地域の歴史や文化財のもつ新たな価値や魅力を知り、これまでに以上に文化財への愛着を深め、文化財を守り伝えていく担い手であるという意識を共有することを目指します。」とありました。地域住民の目線を取り入れながら、ぜひ連携が進みますよう、ご指導をお願いします。	いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
6	18	第1章「千葉市の概要」 (3)産業 1行目	「産業別従業者数を見ると～」→「千葉市の令和2(2020)年の産業別従業者数を見ると～」 他の文章に合わせて付記した方がよいと思います。	ご指摘のとおり変更したいと考えております。 「 千葉市の令和2(2020)年の産業別従業者数 を見ると、」	有
7	20	第1章「千葉市の概要」 (5)市内の博物館、美術館等 展示施設 表	施設名、所在地等を示す表において、No.及び施設名に横線が無い箇所があります。意図するところがありましたら教えてください。	ご迷惑をおかけしております。市ホームページで公開しているデータを確認したところ、表示倍率の関係で横線が見えないようです。表示倍率を上げると横線が確認できました。	無

No.	頁数	項目	意見内容	意見内容に対する市の考え	修正の有無
8	21	第1章「千葉市の概要」 3歴史的背景	「関東平野は、35,000年前にはじまる旧石器時代の遺跡集中地で、とりわけ千葉市域を含む下総台地は、全国の1割に及ぶ遺跡数を誇ります。下総台地は、日光・足尾山麓と緑区土気町一帯を結ぶ尾根と、房総丘陵から緑区土気町を通って下総台地につながる尾根に野生動物の通り道があります。この2つの道が交差する緑区あすみが丘一帯は狩猟好適地で、旧石器時代の遺跡が特に多く見つかっています。」とあります。このことを1年前に知った時に、ある主の感動を覚えました。これこそが、千葉市の中の丘陵地の遺跡文化の原点であると思います。ぜひ、この地域の古代文化の調査研究の強化体制を検討されることを期待いたします。	いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
9	46	第4章「計画の基本理念と基本方針」 (1)基本理念	基本理念は、現存する文化財を知り、守り、活用することだと理解できます。さらにこのサイクルを活かして、現在の文化が次世代の文化財となる（創る）まで繋げていければと思います。つまり、知る・守る・活かす・創るというサイクルです。	「創る」は、第3次千葉市文化芸術振興計画の基本理念であり、「美術品や文化財の継承と魅力の発信」を基本目標としています。本計画とも連携する内容になりますので、いただいたご意見は今後本計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
10	46	第4章「計画の基本理念と基本方針」(2)基本方針②みんなで文化財を「活かす」(体制整備、連携、活用)	本文1段落目の考え方に賛同します。特に、デジタル技術で文化財の見せ方や、活用の仕方が大きく変化していく時代となりました。建物や地形などもデータをもとに立体的に表現できます。環境との調和もイメージとして共有することが可能になります。若い人達には、VRの世界で文化財を学ぶことも可能です。古墳や城跡も立体的に視覚的に活用できると思えます。たとえば、猪鼻城界隈の地形、大椎城の地形をVRで見ても、現地で確認することになれば、理解がさらに進むと思います。攻めの文化財の創出や活用体制があっても良いと思います。	いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
11	48	第5章「文化財の保存・活用に関する課題・取組み」 「千葉市の主な文化財の保存・活用の取組み」表	千葉市の主な文化財の保存・活用の取組みの表において、主な取組欄に横線が欠けている理由をご説明ください。	ご迷惑をおかけしております。市ホームページで公開しているデータを確認したところ、表示倍率の関係で横線が見えないようです。表示倍率を上げると横線が確認できました。	無
12	50	第5章「文化財の保存・活用に関する課題・取組み」 「文化財の類型・種別ごとの把握状況」表	文化財の類型・種別ごとの把握状況の表における類型・種別欄も上記と同様です。	ご迷惑をおかけしております。市ホームページで公開しているデータを確認したところ、表示倍率の関係で横線が見えないようです。表示倍率を上げると横線が確認できました。	無
13	56	第6章「文化財の保存・活用に関する取組み」 取組31「文化財めぐりへのシェアサイクルの活用推進」について	市内のサイクルステーションではポート数が不足、または満車・0台など偏っている場所が多いため、適切なポート数にすること、および満車や0台になってしまわないように偏り対策をして頂きたいです。	関係各所と調整のうえ、本取組みに着手したいと考えております。ご意見ありがとうございます。	無

No.	頁数	項目	意見内容	意見内容に対する市の考え	修正の有無
14	60	第7章「文化財の保存・活用の推進体制」の連携する多様な主体【行政】表	環境局資源循環部産業廃棄物指導課を入れていただきたいです。 御茶屋御殿など、インバウンド向けの史跡として今後有効に活用できる場所が残念な景観になっている。文化財周辺のヤード設置規制も含めて、対策をとっていただきたいです。	関係各課と有効な対策等について検討していきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。	無
15	60	第7章「文化財の保存・活用の推進体制」の連携する多様な主体【行政】表	都市局建築部宅地課を入れていただきたいです。今後、開発行為が広がることによって、歴史的史跡の景観に大きな影響が出てくるのが考えられます。開発規制も含めて、対策をとっていただきたいです。	関係各課と有効な対策等について検討していきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。	無
16	64	巻末資料「千葉市文化財保存活用協議会 委員名簿」表	千葉市文化財保存活用協議会 委員名簿においても、前記と同様に所属欄に横線（境界線）がない部分があります。他の表も同様です。	ご迷惑をおかけしております。市ホームページで公開しているデータを確認したところ、表示倍率の関係で横線が見えないようです。表示倍率を上げると横線が確認できました。	無
17	69	巻末資料 (3)市民講座アンケート結果	参加者の年齢層を見ると、高齢者が多いように思います。3回の開催日は火曜日で、2月11日の祝日を除き、平日です。若い年齢層の参加のしやすさも考えて休日開催も検討をお願いします。	市民講座は、令和5年2月の全3回をいずれも土曜日に実施しました。また、ワークショップは、令和5年12月と、令和6年1月の全2回をいずれも日曜日に実施しました。 今後、講座等を実施する際は、日時等を意識しつつ開催したいと思います。ご意見ありがとうございます。	無
18	—	全般	文化財の活用方法について、単に文化財を死蔵するのではなく、人々に楽しんでもらうためには、文化の発展の物語や、その文化が到達した絶頂期を示すことが重要です。例えば、火縄銃の射程距離の進化のように、数字だけでなく、その背景にある物語性や、時代の最も優れた技術が凝縮されたものにこそ面白みがあるもので、文化財の保管や展示においては、単なる年代順の羅列ではなく、発展の流れや最高到達点を示す視点が求められると思います。	いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無
19	—	全般	区のシンボル、地域資源とされる花見川の歴史を多くの方に知っていただくことにより、“流れない川”ならではの花見川の新たな価値、魅力を感じ、堪能して頂きたいと思いました。	関係各課とも連携し、いただいたご意見は今後計画の取組を進めるうえで参考とさせていただきます。	無